

# 左下肢疼痛で搬送となった 1 例の経過と症例検討

徳之島病院 2 年次研修医

松口 崇央

71 歳女性 ADL は自立 高血圧症の既往があり近医でフォローされていた方  
畑仕事での作業中、突然発症の左下肢の脱力と疼痛で動けなくなり救急要請を  
行った。

診察上は左下肢に感覚障害・麻痺を認めたが、足背動脈は触れなかった。同部  
位以外の疼痛の訴えはなかった。下肢の造影 CT では左浅大腿動脈の閉塞を認め  
たため、家族の希望もあり名瀬徳洲会病院へと搬送になった。

搬送前の Vital は収縮期血圧は 200mHg 台と高かった。生理食塩水にヘパリン  
を混注し、ソセゴンにて鎮痛を行い、搬送した。

救急車内では下肢の疼痛を訴える以外は特に訴えはなく、意識は清明であった。

自衛隊へ到着し、離陸 20 分後に突然生あくびとを認め、視線が合わなくなっ  
た。

以降の経過・考察は、当日のスライドにて発表させていただきます。